

意外に知らない!?

新薬 トリビア

「くすり」には
2種類ある!?

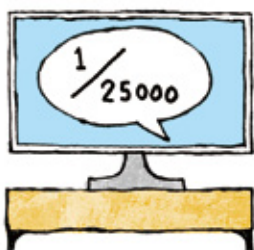
私たちの健康を守るために大切な「くすり」。ひと口に「くすり」といっても2種類あるのを知っていますか。

「医薬品は「医療用医薬品」と「一般医薬品（OTC医薬品）」に分けられます。「お医者さんにかかり、処方せんが必要なくすり」と「処方せんなしで購入することができるくすり」の2つ、と考えればわかりやすいかもしれません。

実はこの2つ、同じ「くすり」といっても有効成分の含有量が



とっても身近な存在なのに、知られていないことも多い「新薬」のこと。あなたはいくつ知っていますか？



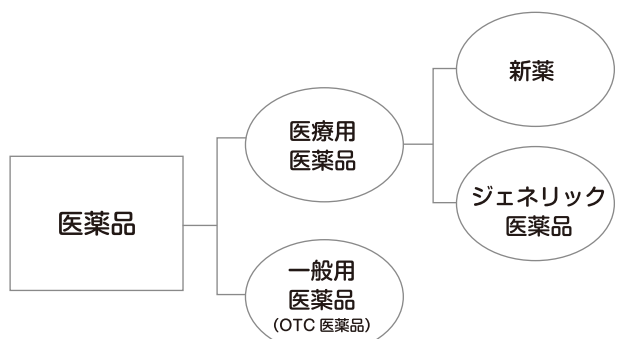
「新薬」ってなに？

医療用医薬品のなかで「新薬」と呼ばれているものがあるのを

「新薬」と「ジェネリック医薬品」は
どう違う？

最近、よく耳にする「ジェネリック医薬品」。新薬とどう違うのか、ご存じですか。

新薬が「先発医薬品」と呼ばれるのに対して、ジェネリック医薬品は「後発医薬品」と呼ばれています。長い年月と多額の研究費をかけて開発された新薬は一定期間、特許などの権利で守られます。その間、開発した製薬企業は引き続き有効性や、副作用などの安全性のチェックなど、新薬を安全に使うためうための努力を続けます。やがて新薬の権利期間が満了を迎えると、他の製薬企業も同じ有効成分のくすりを作ることができるようになり、ジェネリック医薬品として販売されるのです。



新薬の開発に
患者も協力している？

新薬の開発の最終段階で行われる「治験」は、患者さんや医師の協力が欠かせません。開発中の新薬は、研究所などで行われるさまざまな試験が終わると、今度はヒトの体で安全性や有効性を確かめる段階に。

同じ有効成分でも
複数の新薬があるのは
なぜ？

現在、日本で使われているくすりの有効成分数は約2500。一方、現在使われている新薬の製品数は約4000品目、ジェネリック医薬品まで含めると約16000品目あります。一つ

いよいよ「治験（臨床試験）」のスタートです。治験にはいくつかの段階があり、最初は健康な人に協力してもらい、安全性や有効成分の吸収や代謝（薬物動態）などを確認します。それで問題がなければ、病気の患者さんに使っているただき、従来の治療法と比べて効果があるかを調べます。公平な試験が行われるよう患者さんにはボランティアで参加していただき、参加するかどうかはあくまでも患者さんの意思次第。もちろん、副作用などの症状があらわれたときにすぐに適切な対応がとれるよう、安全第一で進められます。



知っていますか。新薬とは、新しいくすりの候補化合物が発見され、有効性と安全性が確認された後、国の承認を受けて発売されるくすりです。一つの医薬品が誕生するまでには多くの研究、試験や申請などの手続きを経なければなりません。研究開発には実に9〜16年もの年月と、多額の費用がかかります。研究者が可能性を信じた化合物でも、実際にくすりにするためには病気への有効性だけでなく、安全性も慎重に判断されるため、せっかくの研究開発を断念しなければならぬことも少なくありません。くすりの候補として研究を始めた化合物が実際に新薬として世に出る成功率は約2500分の1。新薬の生まれる道のりはとても長く険しく長いものですが、新薬を開発している製薬企業は多額の研究開発費を投じて、一人でも多くの人の病気を治すためにチャレンジを続けています。



の有効成分であっても、患者さんの年齢や体重、病状に合わせて細かく使い分けられるよう、タイプの異なる製品が用意されています。たとえば、有効成分の含有量が異なるものやくすりの使用方法が異なるもの（注射剤や錠剤といった剤形）などです。効果が高いことはもちろん、さまざまな患者さんにあわせた用量剤形の医薬品が開発されています。

